

科学教育 振興助成



子どもたちの論理的思考力を養い、創造性を育むことを目的に、
小中高校における科学教育の振興に資する取組を助成します。

対象

小・中・高などの教育機関

個別校助成

助成対象

小学校、中学校、高等学校等における児童・生徒の科学に対する関心を高める授業やクラブ活動等
※地域特性を活かした取組を重視します。

助成金額

最大**30万円**×**1年間**

応募資格

上記の企画と実施に取り組む小学校、中学校、高等学校等。
※原則、大学や教育センターからの応募はできません。

複数校連携助成

助成対象

小学校、中学校、高等学校等の**複数校が連携して、児童・生徒が主体的に共同で実施**する科学に対する関心を高める2年間の活動
※地域特性を活かした取組を重視します。

助成金額

最大**100万円**×**2年間**

応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校。
※原則、大学や教育センターからの応募はできません。
※2年間継続して活動いただける組織に限ります。

教員支援助成

助成対象

子どもたちの理科の力を向上させるための指導法改善や教材の開発などに取り組む意欲的な**小中学校の教員**を支援する3年間の活動

助成金額

最大**100万円**×**3年間**

応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校または、機関、コンソーシアムの代表。
※原則、地方自治体からの応募はできません。教育センターからの応募は可能です。
※教員の自主的な研究会は、組織体として整備され、教育委員会が承認または認知した組織に限ります。
※3年間継続して活動いただける組織に限ります。
※複数の小中学校の参画が必須です。

- 本助成対象は、学校、教育機関であり、教員個人を対象としたものではありません。
- 特別支援学校等も対象です。
- 高等専門学校は、1～3年生の活動が対象となります。
- 個別校助成、複数校連携助成は児童・生徒が主体的に行う活動が対象です。

2026(令和8)年度助成の

募集期間

2025(令和7)年

10.1_水-11.30_日

助成採否のご連絡は
3月上旬に致します

応募 方法

当財団ホームページにて、募集要項、FAQを確認の上、ウェブ申請してください。
トップページの「マイページ」より基本情報登録(ID取得)を行ってください。

過去の 助成数

2025(令和7)年度	【個別校】 74件	【複数校連携】 29件	【教員支援】 21件
2024(令和6)年度	【個別校】 73件	【複数校連携】 32件	【教員支援】 20件
2023(令和5)年度	【個別校】 64件	【複数校連携】 33件	【教員支援】 16件

お問い合わせ先



公益財団法人 **中谷財団**

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
国際健康開発センタービル(IHDビル)5階 神戸分室 科学教育振興助成担当
<https://www.nakatani-foundation.jp/>
お問い合わせは、上記HPの「お問い合わせフォーム」よりお願いします。



中谷財団 検索

後援



文部科学省

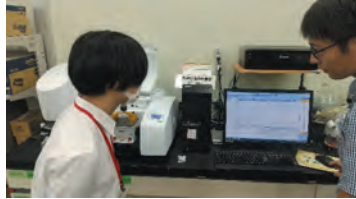
CASE STUDY — 事例紹介

複数校連携助成

京都市立京都工学院高等学校（京都府）

絹由来セリシンによる微生物燃料電池の高出力化と高校間・地域連携による小中学生向け水素エネルギー教育教材の開発

サイエンスクラブでは開校から一貫して新エネルギー発電技術を研究、特に有機系太陽電池である色素増感太陽電池や微生物燃料電池(MFC)の研究に力を注いでいる。今回はセリシンを利用することで電池の長寿命化を可能にし、MFCの発電機構にアプローチして電池の高出力化を達成した。共にMFCの研究を進めている堀川高校自然科学部とは、評価方法や進め方が異なったが、生徒の主体性を重んじて動作原理の異なるMFCに挑戦した結果、研究テーマが広がった。合同で参加した外部発表会では積極的な交流や活発なディスカッションが行われた。



個別校助成

秋田県立秋田高等学校（秋田県）

食品保存料ナイシンの有効活用に関する研究

香料に用いられている化合物を利用して国内で市場が拡大し続けている乳酸菌由来の食品保存料ナイシンの有効的な利用法の検討を目的に研究した。またその作用機序を解明することで食の安全や健康への理解を深め、化学構造を検討することで有機化学や生化学の知識を深めることもでき、分野融合的な思考が深まった。研究成果を積極的に学外で発表し、全国高校総文で最優秀賞を受賞するほか、学祭や農業科学館等で小中学生と実践交流し、子供たちが科学に興味を持つような取組も行っている。



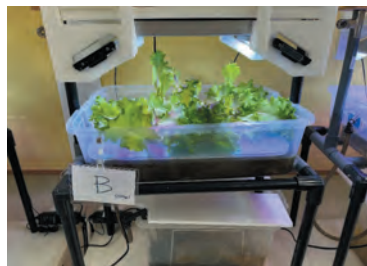
個別校助成

沖縄県立球陽中学校（沖縄県）

アクアポニックスシステムの探究と活用

— 鉄鋼スラグで野菜が大きくなる?! —

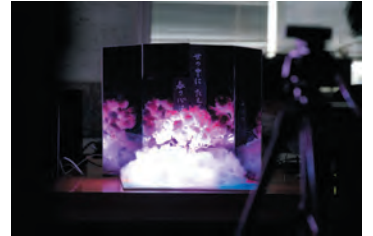
沖縄県は亜熱帯気候で葉野菜が育ちにくく、食材を県外からの移入に依存している。また、災害が起こると離島では食糧不足になるという問題を抱えている。サイエンス部ではその課題解決のため、持続可能な食糧生産システムの構築を目指し、独自のアクアポニックスシステムの探究をおこなった。これまでもミステリークレイフィッシュ（ザリガニの一種）を活用した葉野菜の室内栽培で成果を上げているが、今年度は酸化スラグをアクアポニックスに投入することを試み、野菜が大きくなることを発見した。資源の有効活用や今後の生産性向上が期待される。



米子工業高等専門学校（鳥取県）

地域文化を題材とする創造的プログラミング教育の実施 — アート作品制作を通じた新たな試み —

アート×デジタルの作品制作を通して、地域の課題解決に繋げるSTEAM教育の実現を目標として活動している。地域の“とっとり花回廊”の満足度向上を目指し、科学技術の力で花の魅力を再認識・再発見するため、高専生の手でアート型プログラミングにより“花”をプロデュースした。この取り組みによって、学生の協働学習への意欲やプログラミングへの関心が高まった。また中学生に対して光×アート×プログラミングの授業を高専生が教師役として実施し、地域のプログラミングへの興味向上にも貢献している。



熊本県立宇土高等学校（熊本県）

神秘の火“不知火”の復活 — 観測・シミュレーション・再現実験を元にした不知火の科学的解明による地域の復興 —

科学部地学班が不知火を継続研究して7年になるがこれまでは一度も観測できなかった。2024年、光源が低く海面付近にある温度層の影響を受けやすい漁火を利用することにより、ついに不知火の観測に成功した。36年ぶりとなる不知火の観測をデジタルカメラで鮮明に動画撮影できたことは世界初の快挙となった。研究成果は科学系コンテストや学会で発表すると共に、地域の高齢者や小学生向けに学習会を開催し紹介した。地元の人でもよく知らない現象となりつつある不知火が再び脚光を浴びるきっかけとなり地域の復興に貢献できた。



教員支援助成

大阪市立味原小学校（大阪府）

幼児期の学びの芽生えを自覚的な学びへ転換する環境づくり

— 保育者・教師の「言葉かけ」に着目して —

場に応じた「言葉かけ」という教育的働きかけの効果に着目し、幼児期・児童期前期において、自然事象を対象とした学びの様相を丁寧に見取くことをベースとしながら、理解深化を促す指導者の対話的働きかけを検討。それを類型化するアイデアの公表・普及を行った。成果として、言葉だけでなく、保育者・教師の見守りなどの態度・姿勢も観点として考えていくことの重要性が捉えられた。また、言葉かけの組み合わせによる学びへの影響も確認された。今後も各観点のバランスや組み合わせを考慮した「言葉かけ」の効果検証を継続する。



大学・高専を対象とした5年間の

次世代理系人材育成プログラム助成も募集しています。

詳しくはHPをご覧ください。